

陰茎リンパ管腫の1例

大阪警察病院泌尿器科 (部長: 藤岡秀樹)

西村 健作, 安永 豊, 高寺 博史

黒田 秀也*, 藤岡 秀樹

LYMPHANGIOMA OF THE PENIS: A CASE REPORT

Kensaku Nishimura, Yutaka Yasunaga, Hiroshi Takatera,

Hideya Kuroda and Hideki Fujioka

From the Department of Urology, Osaka Police Hospital

We report a case of lymphangioma of the penis. A 45-year-old man presented with a painless mass on the dorsal penis. A soft and movable mass was excised under local anesthesia. Pathological findings demonstrated vast amounts of fluid, which did not involve any blood cells and confirmed it to be cavernous lymphangioma. After 2 years postoperatively, no evidence of recurrence was present. We review 22 reports of penile lymphangioma in Japan.

(Acta Urol. Jpn. 40: 1037-1039, 1994)

Key words: Lymphangioma, Lymphangiectasis, Penis

緒 言

リンパ管腫は頸部, 腋窩, 上肢に好発する良性腫瘍である。泌尿器科領域においても陰茎, 陰嚢に発生したリンパ管腫の報告が散見される。今回, 陰茎リンパ管腫の1例を経験したので報告するとともに, 自験例を含めた本邦報告例22例について考察を加えた。

症 例

患者: 45歳, 男性

主訴: 陰茎無痛性腫瘍

既往歴: 42歳, 慢性膀胱炎

家族歴: 特記すべきことなし

現病歴: 1991年11月陰茎背面の腫瘍に気づき近医を受診, 精査治療目的にて当科紹介受診となる。

初診時現症: 陰茎背面, 冠状溝より約 5 mm 近位側に 2.0 cm × 1.0 cm の腫瘍を触知した。表面は平滑で可動性良好であった (Fig. 1)。

初診時検査所見: 検血, 生化学, 腫瘍マーカーは尿酸が 6.5 mg/dl と軽度高値を認める以外異常はなかった。検尿所見に異常なく, 尿細胞診は陰性であった。

手術所見: 1991年12月6日局所麻酔下に腫瘍摘除術

を施行した。周囲組織との癒着はほとんどなく, 摘出は容易であった。腫瘍は黄色透明の内容液を含んだ嚢胞が結節状に連なっていた。

病理組織所見: 弱好酸性の内容液が貯留した管腔が数珠状に存在しており, 内容液には血球成分は認めなかった。内皮細胞に裏うちされた管壁は肥厚しており, 一部平滑筋線維を認めた (Fig. 2A, B)。以上より陰茎海绵状リンパ管腫と診断した。

考 察

リンパ管腫は50~65%が生下時に, 90%が2歳以下で認められ, 幼児期に増大傾向をもつ良性疾患である¹⁾。頸部, 腋窩, 上肢に好発するとされているが, 泌尿器科領域でも陰茎, 陰嚢^{2,3)}に発生したリンパ管腫の報告が散見される。成因として, 乳幼児期に発生する例は先天性のリンパ管形成不全・走行異常に起因すると考えられている。一方, 成人例は手術・外傷・炎症・放射線治療等の要因が発生に関与していると考えられている。その発生機序はリンパ液の流れ, すなわち浅毛細リンパ管網から深リンパ管網を経て, 集合リンパ管, リンパ本幹に流れるこの経路でリンパ排導が障害されることにより, 管内リンパ鬱滞が生じ, 腫瘍を形成すると考えられている^{4,5)}。

病理学的には capillary, cavernous, cystic の3型に分類される。capillary lymphangioma は小さな管

*現: 小松病院泌尿器科

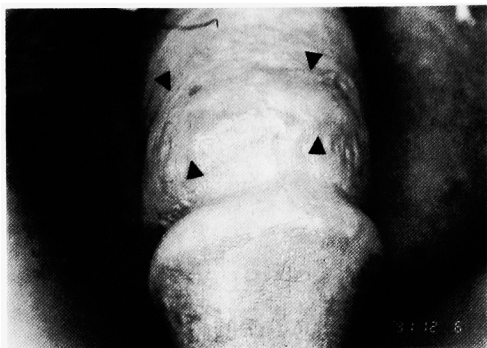
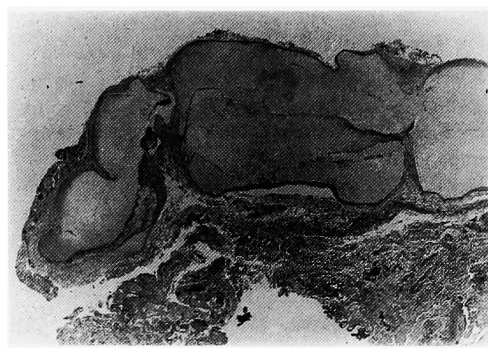
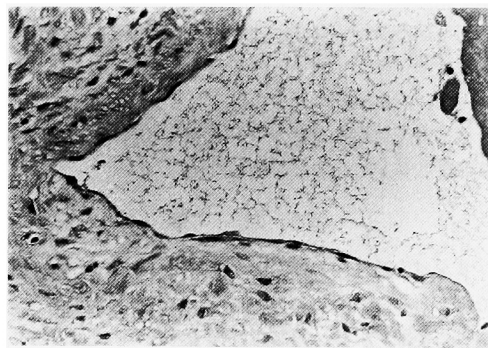


Fig. 1. A soft and movable mass on the penis.



A



B

Fig. 2. A mass is composed of cystic spaces lined by epithelial cells. The spaces are filled with fluid not containing erythrocytes. (A) $\times 40$, (B) $\times 100$.

腔に薄い管壁を持ち、豊富な間質成分を有する。cavernous lymphangioma は管腔が大きく、管壁の肥厚を伴うことが多い。cystic lymphangioma は肉眼的に確認できるほど管腔が大きく、正常リンパ管との交通性がなく、管壁に膠原線維や平滑筋線維を有することが多いとされている⁶⁾。これはあくまでリンパ管腔の大きさや管壁の形態による分類であり、明確に

組織学的に鑑別診断するのは困難である。これら3型の発生には結合織の密度が関係していると考えられており、cavernous lymphangioma は口唇、口腔内、舌など比較的結合織が密な部位に、cystic lymphangioma は頸部、腋窩など疎な部位に好発するとされている¹⁾。

リンパ管腫の病理学的所見として共通しているのはリンパ管の拡張と管壁の異常である。しかしリンパ内皮細胞の腫瘍性・自律性増殖を認めることは殆どなく、リンパ管拡張症と病理組織診断された症例との鑑別は困難とされ、成書ではこれらを同一疾患として包括し、掲載している⁶⁾。また、他に鑑別すべき疾患として、Mondor病、陰茎縫線嚢腫、硬化性リンパ管炎、血管腫、平滑筋腫などがある。Mondor病は Mondor phlebitisとも記載されるように血栓性・炎症性の静脈疾患であり、静脈内腔の狭小化と内容液に血球成分を含むことが特徴である。したがってリンパ管由来の本疾患とは比較的容易に鑑別可能で、最近では第Ⅷ因子関連抗原の証明が血管壁の同定に有用であるとされ、診断に応用されている⁷⁾。陰茎縫線嚢腫は陰茎縫線上や包皮小帯に発生し、嚢胞壁は円柱上皮、扁平上皮、移行上皮より成ることが特徴で、これらよりリンパ管腫と鑑別可能と考えられる⁸⁾。硬化性リンパ管炎はリンパ管の拡張と管壁への炎症細胞の浸潤が特徴的で、時に管腔内に血球成分が混在する場合がある。自験例では、管壁は炎症所見に乏しく、内皮細胞に裏うちされていること、内容液に血球成分を含まないこと、および管腔の大きさ・形態より海綿状リンパ管腫と診断した。

陰茎リンパ管腫はリンパ管拡張症を含め、本邦では自験例を含め22例の報告がある^{8,9)}。発生年齢は9歳～45歳、平均29.6歳で、発生部位は冠状溝付近が16例と最も多く、陰茎体部1例、亀頭部1例、詳細不明4例であった。冠状溝付近に好発するのは、亀頭部のリンパ管網は発達が著しく、リンパ液が冠状溝付近の集合管に急速に流入するため、還流障害が最も生じやすいためであると推測される。

治療は腫瘍切除術が一般的であるが、切除が不十分であれば再発するとされている。疼痛を伴う場合、腫瘤が増大傾向をもつ場合、悪性腫瘍との鑑別が困難な時に外科的手術の適応があると考えられる。しかし病変が多発性の場合は再発を考慮し、リンパ管造影を施行し、リンパ嚢滯の範囲を確認することが重要であり、安易な外科的切除は避けるべきであると強調する報告もある^{4,5)}。陰茎リンパ管腫に関しては、限局性のためか再発の報告はない。本症例も術後2年経過し

た現在再発は認めていない。

結 語

陰茎リンパ管腫の1例を報告するとともに自験例を含む本邦報告例22例について考察を加えた。

本論文の要旨は、第144回日本泌尿器科学会関西地方会において発表した。

文 献

- 1) Bill AH and Sumner DS: A unified concept of lymphangioma and cystic hygroma. *Surg Gynecol Obstet* **120**: 79-86, 1965
- 2) Merka ST, Bhatt KS and Wood FW: Cystic lymphangioma of the scrotum: a case report. *J Urol* **131**: 1179-1181, 1984
- 3) Mulcahy JJ, Schileru G, Donmezer MA, et al.: Lymphangioma of scrotum. *Urology*

14: 64-65, 1979

- 4) 相模成一郎, 浅野翔一, 森田秀樹: リンパ管腫. *皮膚診療* **13**: 1132-1136, 1991
- 5) 浅野翔一, 宮崎孝夫, 相模成一郎: リンパ管腫. *臨皮* **42**: 957-961, 1988
- 6) Enzinger FM and Weiss SW: Tumors of lymph vessels. In: *Soft tissue tumors*. Edited by Harshberger SE. pp. 482-501, The C.V. Mosby company, St. Louis, 1983
- 7) 土井 康裕, 竹山 政美, 藤岡 秀樹, ほか: 陰茎 Mondor 病の1例. *泌尿紀要* **34**: 1245-1248, 1988
- 8) 竹山政美, 高 栄哲, 藤岡秀樹, ほか: 陰茎リンパ管腫の1例. *泌尿紀要* **35**: 523-525, 1989
- 9) 金 哲将, 神波照夫, 友吉唯夫, ほか: 陰茎リンパ管腫の1例. *臨泌* **46**: 425-426, 1992

(Received on April 28, 1994)

(Accepted on July 11, 1994)